

# 日本の10-12月期GDPはプラス成長

## ポイント① 10-12月期はプラス成長

2月15日発表の2021年10-12月期の日本のGDP（国内総生産）統計によると、実質GDPは前期比+1.3%、年率換算では+5.4%とプラス成長となりました。10-12月期は新型コロナウイルスの感染第5波の収束に伴い、緊急事態宣言が解除され、家計消費が押し上げられたことが要因だと考えられます。

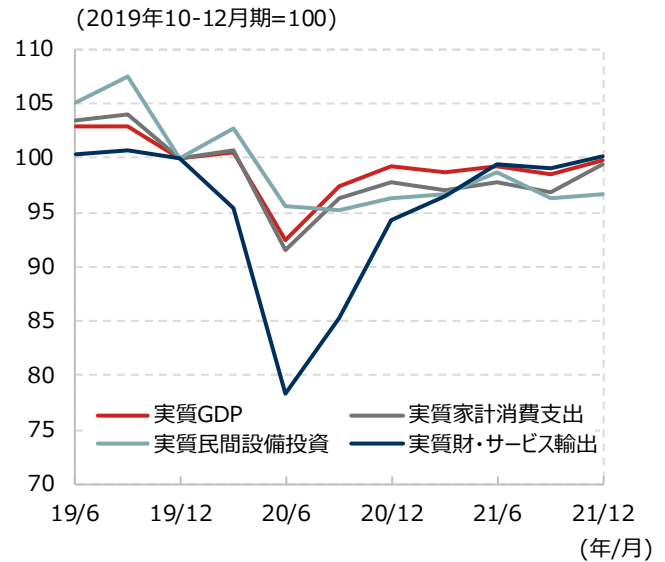
## ポイント② 需要増も、国内のインフレは低調

需要項目別の前期比増減率を見ると、家計消費は実質+2.8%、設備投資は実質+0.4%、輸出も実質+1.0%となりました。家計消費はコロナ禍からのリベンジ消費により大幅に増加。一方、設備投資は、長期化する供給制約の状況下でもまずは在庫の取り崩しによって需要に応えたことが小幅増の背景だと考えられます。また、インフレについてはGDPデフレーターが前期比▲0.8%と前期からさらに低下しています。これは高騰している輸入品を除いた国内の財においては、インフレが波及していないということが示唆されています。今回の統計結果は日銀がインフレに対して懐疑的な姿勢を裏付けるような結果となったと考えられます。

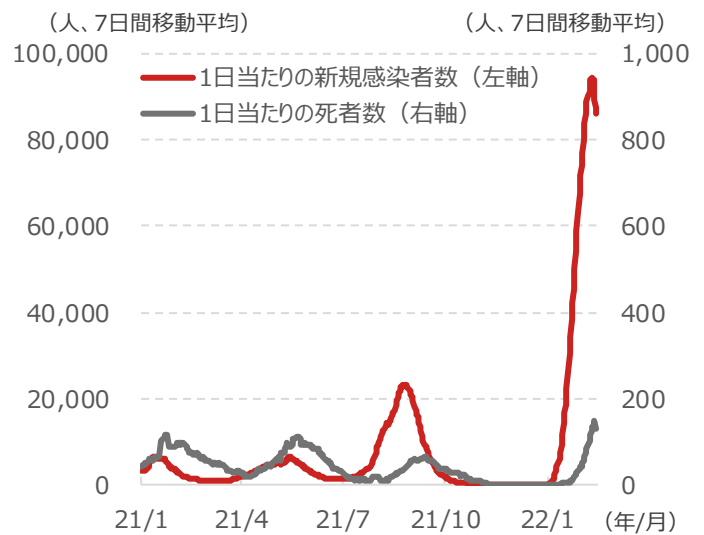
## ポイント③ 1-3月期はマイナス成長の見込み

10-12月期はプラス成長となりましたが、1-3月期はマイナス成長となる見込みです。昨年11月下旬に発見された新型コロナウイルス・オミクロン型が日本でも1月以降、急激に感染が拡大しており、個人消費や企業活動が再び落ち込むと考えられます。今後、いかに早期に国内での感染を収束できるかが、日本の景気回復のカギとなりそうです。

## 日本の実質GDPと主要需要項目



## 日本のコロナ新規感染者数と死者数



**重要** 2月17日 日本貿易収支 (1月)  
**イベント** 2月18日 日本全国消費者物価指数 (1月)